

## 国際シンポジウム発表

### EUROCORR 2015

2015年9月6日～10日にヨーロッパの腐食シンポジウムEUROCORR2015がオーストリアのグラーツ、Stadthalle Graz (Messeplatz 1 Graz, Austria), にて行われました。当社社長須賀茂雄が“Corrosion test instruments of new cyclic corrosion test methods”について発表しました。発表では、最近欧州の一部の自動車産業分野で市場相関を高めるために複雑な腐食促進試験方法が考案されているが、実際にそれを実行する試験装置の重要性に言及し、自社試験機の試験片各位置における制御データを紹介しました。また、日本の技術者から寄せられる更なる試験精度向上の要望に対し、回転式塩水噴霧試験装置や、塩化物付着量を一定制御するISO 16539対応の全自動試験装置の紹介など、自社試験機のアプローチを紹介しました。最後に各産業分野からのさまざまな要望を実現した特殊試験装置の製作事例を紹介し、聴講者より多くの反響が寄せられました。



発表風景

### 7th European Weathering Symposium EWS

2015年9月16日～18日にヨーロッパのウェザリングシンポジウム7th European Weathering Symposium EWSがイタリアのナポリ、Congress Center of the University of Naples Federico II, にて行われました。当社社長須賀茂雄が“Effectiveness of the ultra high accelerated weathering test methods”について発表しました。

発表では、日本の自動車産業を中心に開発され、この30年来広く実用されている高照度キセノン試験方法と試験結果の一例を紹介、また更に試験の短縮化を目的としメタルハライドランプ光源の超促進試験方法と試験結果の一例を紹介し、その可能性と注意すべき点を解説しました。最後に促進耐候性試験結果の検証手法として、各材料の劣化の原因となる波長を特定できる分光老化試験を紹介し、聴講者の関心を集めました。



イタリアの風景



発表風景

## 国際規格の動向—国際会議に出席して—

### ISO/TC42/WG5/TG3 ( 写真、画像の保存性 ) 札幌国際会議

\* 須賀茂雄 \*\* 渡辺 真

2015年6月3日～4日にISO/TC42(写真、画像の保存性)の会議が札幌で開催され、アメリカ・オランダ・ベルギー・日本の4ヶ国15名が参加した。当社に関係する耐光性試験の審議について報告する。

■ ISO 18937 Imaging materials - Photographic reflection prints - Methods for measuring indoor light stability

須賀が、本規格の改正の趣旨は“使用者の使いやすさ”であることを再確認した。続いて、キセノンウェザーメーター(冷却装置付)におけるBPT(Black panel temperature)、CAT(Chamber Air temperature)、OD(Optical Density) 0.75 Grayの試験片温度結果の一例を示した。目標とする25℃～30℃の試験片温度結果をもたらす、BPTとCATの設定は、フィルタや、放射照度のレベルや、装置によって決まることを説明した。

審議グループは、他の試験機メーカー(ATLASやQ-Lab)に同様のデータを要求し、これらのデー

タは、同じOD 0.75 Grayの試験片及び温度測定方法を使うことが好ましいことが提案された。

また、ISO 18937のpart 2に取り組むことが話し合われ、近年蛍光灯に置き換えられ始めたLEDに取り組む。Henry Wilhelmは、関係者に働きかけアウトラインを用意する。PL(Project Leader)は、次の会議の前までに、part 2の最初のPWD(Prenary Working Draft)を準備し、回送することとなった。

今回は今年11月ワシントンDCで開催される。

\* 代表取締役 社長

\*\* 製造本部 製造技術部 部長



TC42 会議風景

### ISO/TC61/SC4(プラスチック、燃焼挙動)パリ国際会議

\*\*\* 片野邦夫

2015年9月21日、22日にSC4(燃焼挙動)のWG会議がパリ(フランス)で開催された。SC4/WG8(着火、燃焼の広がり及び燃焼発熱)には、イギリス・ベルギー・フランス・日本の4ヶ国10名が参加した。

今年3月までに行われたCD4589-1, -2, -3の投票結果は賛成多数で承認であった。しかし多くの技術

的なコメントが寄せられ、その後のTC61/SC4日本国内委員会に於いても、それらのコメントの対応についての議論が行われた。今回、その結果を盛り込んだコメント対応案をWG8会議に提出し、いくつかの主要な対応案について議論が行われた。今回の会議の結果を含めたコメント対応案を、一度すべてのWG8メンバへ回送し意見を求めた後に、DIS投票開始を目指すこととなった。

\*\*\* 製造本部 製造技術部 係長